



# 東 侯 野 11月号

東侯野小学校 学校だより 平成29年10月31日



## 将来の夢

副校長 石渡 範子

今年もあと残すところ2ヶ月。月めくりカレンダーもすっかり薄くなってしまいました。年々月日の経過が加速しているように思います。ここ最近では、台風が来たり急激に冷え込んだりと例年にない気象状況でした。暑い日差しを避けながら外での活動を行っていたことが、1ヶ月前のこととは思えないほどの寒さです。

いつも本校の子ども達のためにボランティア活動をしてくださっている保護者・地域の皆様、大変感謝いたしております。後期がスタートし、地域や学校で行われる数々の行事やイベントも前半が終わりました。本校では、大きな行事の一つである「凧づくり・凧あげ大会」の活動準備がスタートしました。今年も、学年ごとに作る凧は違いますが、東侯野小学校凧の会の方々にご指導をいただきながら和凧づくりに親子で挑戦します。思い思いの手作り凧が、東侯野の大空一面に力いっぱい揚がることを願っています。

6年前のことですが、米デューク大学の研究者であるキャシー・デビッドソン氏が2011年8月のニューヨークタイムズ紙インタビューの中で、「2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学を卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」と語った言葉があります。確かに、携帯や液晶テレビなど今当たり前にあるものが、私が就職した頃はありませんでした。パソコンも企業にはあったものの一般家庭にはなく、むしろワープロの方が普及していた覚えがあります。ましてやスマホなど、その頃全く想像もつかなかったことです。急激に社会が変化している中で、小学生に「将来つきたい職業」を調査（小学生白書 Web版 2016）したところ、「YouTuber」が今回登場してきたそうです。これは、自分らしく楽しいことをしながら稼ぐ、という新時代のビジネスに小学生も注目していることのあらわれなのでしょう。ちなみに、男子の1位はプロサッカー選手、2位がプロ野球選手、3位が警察官、女子の1位はケーキ屋、2位はパティシエ、3位は医師となっています。「YouTuber」の回答は少数ながらも、昔では考えられなかったことです。さらに中学、高校生となると、より現実的な職業をめざすようになるようです。また、なりたい職業が見つからないという子もいるようですが、多くの情報に触れ、大人の働く姿を観察し、迷いつつ真剣に柔軟に将来を考えているのでしょう。

親や周りの大人たちからの適切なアドバイスやサポートが、より一層重要な時代だとも言えそうです。